公益財団法人高知県産業振興センター

情報トプラットフォーム

2024 **1** 月号 vol.436

【特集】創業100周年、50周年企業~輝き続ける企業の未来へ~









- ■新年ごあいさつ
- 創業 100 周年、50 周年企業
 - ~輝き続ける企業の未来へ~
- 高知県地場産業大賞次世代賞応募高校紹介 9
- 羽ばたく! 高知のものづくり 10
- ■新・お~い会員さん 11
- よろず支援拠点通信 13
- 行事予定表 15



新年の

であいさつ

高知県知事 濵田 省司



新年あけましておめでとうございます。

公益財団法人高知県産業振興センターの会員の 皆さまや県内企業・団体の皆さまにおかれまして は、日ごろより、本県の商工業はもとより県行政 の全般にわたり、ご支援、ご協力をいただいてお りますことに心から感謝申し上げます。

私が大切な故郷、高知をもっと元気にしたいとの思いを胸に、知事に就任して早4年がたちました。昨年11月の選挙では、県民の皆さんのご支持をいただき、再び知事として県政の舵取り役を担う機会を得ることができました。

引き続き「共感と前進」を基本姿勢として、県 民の皆さんと共に課題の解決に向けて着実に前進 します。そして、得られた成果をもってさらなる 共感を得て取り組みが一層前進するという「共感」 と「前進」の好循環を生み出し、県政の進化に挑 戦してまいります。

その際には、時代の潮流を先取りしたデジタル 化やグリーン化、グローバル化という観点から施 策の一層の進化を図ります。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、コロナへの対応は大きな転換点を迎え、社会経済活動の正常化に向けた動きが 急速に進みました。

一方、物価や原材料・エネルギー価格の高騰が 長期化しており、県民生活や企業活動など県経済 に様々な影響を及ぼしています。

引き続き、県民の皆さんの暮らしを守るため、国 の経済対策も活用し、しっかりと対応してまいり ます。

現在、県政の最重要課題は、本県の将来を左右 する人口減少への対応です。深刻化する人口減少 を克服し、持続可能な人口構造への転換を図るため、4、5年後までに県内の若年人口の減少傾向に歯止めをかけ、概ね10年後には現在の水準まで回復させることを目指して取り組んでまいります。このため、「いきいきと仕事ができる高知」、「いきいきと生活ができる高知」、「安全・安心な高知」という目指すべき3つの高知県像を掲げ、その実現に向けて、幅広い施策を総合的に展開します。

「いきいきと仕事ができる高知」の実現に向けては、本県の一人当たりの県民所得を概ね十年後までに全国中位の水準まで引き上げることを目標に、県経済の活性化に取り組みます。

「いきいきと生活ができる高知」の実現に向けては、学力向上や不登校への対策など、教育・人づくりのための施策と子育て支援の充実を図ります。 「安全・安心な高知」の実現に向けては、南海トラフ地震や風水害に備えて、立ち後れている道路、河川、港湾などのインフラ整備を加速するなど、防災・減災対策を力強く進めてまいります。

こうした一連の取り組みを県民の皆さんと心を 一つにして進めることで、より元気で豊かな、そ してあったかい高知を実現し、次世代にしっかり 引き継いでいけるよう全力を尽くし、一層邁進し てまいります。

本年は、高知の未来を切り開くため、県の施策を 一層進化させ、人口減少克服へ向けて新しい一歩を 踏み出す一年にしたいと考えていますので、ご支援、 ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして素晴ら しい一年となりますようご祈念申し上げまして、 年頭のご挨拶とさせていただきます。 公益財団法人 高知県産業振興センター 理事長 栗山 典久



令和6年という新しい年を迎え、謹んで新春 のご挨拶を申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症の 感染症法上の位置づけが 2 類から 5 類へ移行した ことで、外出機会の復活やインバウンド需要の 拡大のほか、企業活動においても、長いコロナ禍 を経て、やっと正常を取り戻しつつある1年と なりました。

一方で、一昨年より続く円安傾向はさらに加速し、 人手不足の常態化、物価や資材の高騰の長期化は、 県内企業の皆さまにとって頭の痛い課題であるこ とを折に触れてお伺いする機会も多くありました。

また、ロシア・ウクライナ情勢や中東での新たな 争いなど海外情勢の緊迫度も増しており、企業の 皆さまも今後の動向を注視した慎重な舵取りを求 められていることと存じます。

こうした状況の中、当センターでは高知県と 連携し、「デジタル化」「グローバル化」という 新しい潮流をとらえた施策をバージョンアップ してまいりました。

「デジタル化」では、各企業の皆さまの課題に応じ た「デジタル化計画の策定」を伴走支援型でサポー トさせていただいたほか、実行支援の一環とし て「デジタル技術活用促進事業費補助金」を創設 することなどによって、計画から実行までの一貫 した支援に取り組んできました。その結果、省 力化による生産性の向上、情報共有による業務の 効率化、残業時間の削減等による働き方改革といっ た成功事例が着実に増えてきております。

また、「グローバル化」では、これまでの海外 展示会への出展支援などに加え、当センター内に

「ものづくり海外展開サポートデスク」を新たに 設けるとともに、タイ・ベトナムにおいて「現地 サポートデスク」を開設いたしました。

『デジタル化やグローバル化に関しては、不安な 面もあり、なかなか踏み出せないところもあろうか と思いますが、当センターでは、引き続き、検討 段階からのワンストップ対応のサポートに力を 入れてまいりますので、まずはお気軽にご相談 いただければ幸いです。

このほか、昨年 11 月に開催しました「ものメッセ KOCHI 2023」は、4年ぶりの通常開催となり、 出展企業 113 社、全国からの招聘企業 123 社、タイ、 台湾など海外からの政府機関・企業もお招きし、 活発な商談が行われました。また、高校や小中学校 から 33 校、約 2,700 名に来場いただくとともに、 高校生の企業見学や、新たに親子企業見学会を 実施するなど、本県の将来を担う子ども達に県内 企業を身近に感じてもらうこともできました。

皆さまのおかげを持ちまして大変盛況に終える ことができましたことは、いよいよコロナ禍から の回復を実感するものでございました。

県内企業の皆さまにとって、今まさに直面す る問題は多く、取り巻く環境は複雑化し、本年 は企業のビジネス環境の変化への対応力が問われ る1年となることが予想されます。私共も高知県 と連携し、より効果的な施策を進めてまいります。

本年の干支は辰。龍が水を得たる如く、本年が 皆さまにとってポテンシャルを最大限に活かし、 空に舞い上がる、実りある年となることを心より 祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

100周年 50周年 企業紹介 ~輝き続ける企業の未来へ~

今月号では、めでたく50 周年、100 周年 ルスなど様々な社会の転換期がありまし などをお聞きしました。

株式会社 立田回漕店

代表取締役会長 立田雅弘 代表取締役社長 立田昌敬

立田グループ〔㈱立田回漕店・若宮汽船㈱・K.T.S(有)〕



Q100周年を迎えられた今のお気持ちを 聞かせてください。

当社は1924年創業以来、時代とともに様々な事業展 開をしてきました。先代なくして今の会社はありません ので、感謝の気持ちを忘れず先代から得た学びや思 いを次の世代へと引き継いでいきます。そして、自分自 身も含め、社員がプライドを持って働ける会社を目指 し、立田グループとともに進んでまいります。

●100年を振り返って、印象深いエピソード、 出来事などがあれば教えてください。

当社が70周年を迎える頃に一度、会社名を変更し ようと思ったことがありました。知人の会社がカタカ ナの入った今風の社名に変更するというので、当社 も変えてみようかと考えたのです。しかし、ある方に その相談をした時に「回漕店って聞きなれないか ら、何の店なんやろうって興味持ってもらえるで!」と 言われ、確かに当社を知らない方からすると新鮮な のだと気づかされました。今では立田回漕店という 名前を非常に気に入っており、インパクトもあるので ずっと残していきたいと思っています。

のこれまでにどういった困難がありましたか?また その困難をどのように乗り越えてきましたか?

他社との差別化を図ることが当社の課題でした。 以前は小型船を複数持つことが会社のリスク回避に なるという業界の考え方があり、当社も同じでした。

しかし、差別化を図るために大型船や特殊船に 切り替えようと決意できたのは、大手企業と仕事をし た経験があったからです。大手グループが自社で船 舶を建造すると固定資産などが増え、自己資本比率 や総資産利益率は低下します。ここに我々のような 中小企業が持つ強みと、営業戦略を活かせる余地 があることに気づきました。大型船や特殊船を取 得、建造し大手荷主との直接取引を拡大したことか ら、収益性は高くないものの安定的な売上を確保で きる事業となりました。

また以前取り組んでいたホテル事業は、会長であ る私が34歳の頃に廃業しました。創業の地でもある この土地を売却することには躊躇もしていましたが、 父から出たのは「いらんがやったら売ったらえい!」 というまさかの言葉でした。他の遊休土地も売却し たことでそれが財源となり、新たな道を切り拓くこと ができました。事業に使わない土地(もの)を持って いても腐るだけ、父のその思考は今も私たち後世に 引き継がれています。

新たな事業を始める時や、これまでの事業を断ち 切る時に迷いやためらいがあるのは、リスクがあり 道が見えないからです。ならば、「やらずに後悔より も、やって反省 | これが私の基本的な考え方であり、 困難にも立ち向かえたのだと思います。

を迎えられた企業をご紹介します。高度経済成長期からバブル崩壊やリーマンショック、近年は新型コロナウイ た。県内企業4社へ取材し、どのように時代の変化に立ち向かったのか、またこれまでを振り返ってのエピソード









▲先代 故·立田敬二(右)

▲創業当時に造られた桟橋

②企業として発展し続けるために大切にすべきこと は何だとお考えですか?

We need a challenge spirit instead of symbiosis. We need a frontier spirit instead of compromise. \bot これはアメリカ独立戦争の時に、言われた言葉だそう です。チャンスがくるかこないかは運だと思いますが、 それにチャレンジするかしないかはその人の意思で す。チャレンジ精神を持ち、もの・ひと・仕事に対して誠 実に取り組むことを大切にしてきました。

①今後に向けた抱負を教えてください。

近年、国内材が使われるようになったことから木 材を船へ積み込む作業が増えるなど、港での仕事は 増えつつあります。また当社は重機を持つ会社なの で震災が起きた際には、真っ先に地域の復興のた めに動かなければならない組織です。しかし、我々 の業界でも若者を中心に作業員が不足しており、ど うすれば地元に残ってもらえるのかを日々考えます。 我々はこれからもずっとこの地に居続け、回漕店の 拠点である港とその働き手を地元に残していきたい と考えています。

海では船、陸上ではトラック、クレーンを動かす総 合物流企業として新たなことに挑戦しつつ、地域や 世の中から必要とされ続ける会社になれるよう取り 組んでいきます。



▲旧社屋

現在社屋▶



----企業情報---

株式会社立田回漕店

事業内容 重機派遣・陸上輸送をメインに世 の中の安心、安全、快適な生活を支える総合 物流企業。クレーン事業・倉庫事業・陸上輸 送事業・湾港運送事業・船舶代理事業などを 行う。

住 所:宿毛市片島4-60 TEL: 0880-65-8141

~輝き続ける企業の未来へ~



株式会社 長野瓦

代表取締役社長 長野泰啓 長野雄一

●100周年を迎えられた今のお気持ちを 聞かせてください。

1924年に創業した瓦メーカーの三代目として「伝統 ある屋根瓦を守りながら時代、時代に沿った商いを」と いう思いでここまでやってきました。"瓦一筋50年"異常 なまでに熱心に瓦づくりに向き合い苦労してきた先代 には心から感謝しています。

100年を契機に地域の方々に改めて感謝の意を表 し、社員の絆をより一層強め、お世話になったお客様を 決して忘れないようにという思いでこれからも先へ先 へと歩みを進めたいと考えています。

●100年を振り返って、印象深いエピソード、 出来事などがあれば教えてください。

私の父である先代は、稼いだお金はすべて瓦の生産に 充てるという考えの人でした。1957年(昭和32年)福岡県 で開催された第4回全日本粘土瓦振興展示会で優秀な成 績で表彰されました。トロフィーや楯を持ち帰り、職人さんた ちが抱き合って喜んでいた光景を今でも忘れません。

1959年(昭和34年)私が高校に入学した年、父は台 風の影響が多い高知県の気候に対応すべく、瓦の並 び(向き)を変化させるなど独自の工法を生み出しまし た。実用新案権を取得後、安芸瓦の普及に奮闘する父 の当時の姿が印象に残っています。その後全国に広 まっていくなかで、人に役立ち感謝されることに喜びを 感じるようになりました。

①これまでにどういった困難がありましたか?また その困難をどのように乗り越えてきましたか?

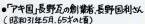
安芸瓦が全国に広まっていった後、阪神淡路大震 災が発生し、瓦は重たいから、軽い屋根材に比べて耐 震性が劣るといった風評が広まり、瓦屋根の需要が大 きく減少していきました。

当時の工法は、瓦の下に土を敷き詰めて葺いていく 「土葺き工法」で相当な重さに加えて建築基準も緩く、 耐震性能はかなり低かったと言えます。しかし現在で は、木に瓦を釘で打ち付けて葺いていく「桟葺き工法」 が一般的となりました。瓦を販売するだけでなく、施工 も行っていた当社はさらなる工法の工夫に取り組みま した。当時は瓦1枚に対して1本の釘を打つのが一般 的でしたが、高知県は台風が多いことから瓦が飛んだ り、ずれたりしたらいけないということで、全国で唯一2 つの穴を開けた瓦に2本の釘を打つという独自の瓦施 工を編み出しました。この独自の工法が耐震性に優れ ていると評価され広まったことで、この困難を乗り越え ることができました。

●企業として発展し続けるために大切にすべきこと は何だとお考えですか?

社員の絆を深めること、地域の人たちとのコミュニ ケーション、お世話になったお客様を忘れないようにす るなど「人」と「絆」が一番大切だと考えます。社員に は、お客様の気持ちを汲んで「誠意 |をもって接し、困







●大正13年春、長野国昌北(在)11才、弟の寿雄 ゴム9才の時の一枚。小学校で兄弟そ3って優等 賞なもとった記念は、



▲二代目社長 全日本粘土瓦振興展示会で表彰された様子

▲創業者

▲二代目社長(左)

難なことにも「勇気」をもって一歩踏み出し、最後には「微笑みを」ということを胸に刻んで仕事に取り組むようにと指導してきました。

また、責任を持つことの大切さを第一に「一度お世話になったら親戚」という感覚を大事にするように教えています。「瓦葺きが終了したら後のことは知らない」ではなく「このお宅で何かあった場合は細やかな配慮を」という体制を徹底しています。この考え方は初代の頃から100年経った今でも大切にしています。

①今後に向けた抱負を教えてください。

安芸市内の中学校の統合により今年4月に新たに開校する安芸中学校の屋根に瓦が採用され、工事も請け負えることになりました。これを100周年記念事業のメインに位置付けています。歴史と伝統ある安芸瓦を地元の中学生に見てもらうことで伝統産業に目を向けていただき、継承していくきっかけになれば嬉しい限りです。

また、高知県立春野総合運動公園野球場のグラウンドフェンスの広告に"目指せ日本一"と我々の意気込みをアピールしています。それに恥じないようこれからも「誠意と勇気と微笑みを」をモットーとして、4代目を中心に次の100年に向けて進んでまいります。





▲社屋

企業情報-----

株式会社長野瓦

事業内容 高知県の伝統的工芸品である安芸 國鬼瓦のほかに、「屋根のことなら何でもおまかせ」と、瓦以外にも太陽光設備や屋根板 金など、多種多様な屋根材を取扱う。

住 所:安芸市庄之芝町4-3 TEL:0887-35-3551





②50周年を迎えられた今のお気持ちを 聞かせてください。

昭和49年に創業し半世紀を迎えることができたことは非常に感慨深く、感謝の気持ちでいっぱいです。数々のピンチを乗り越えてこられたのも有形無形のご援助をいただいた方々のおかげです。また事業を新しく始めるにあたって全面的に支えてくださった量販店の皆さまをはじめ、飲食店、病院、各事業所の皆さま、スタッフの方々に心より感謝いたします。

②50年を振り返って、印象深いエピソード、 出来事などがあれば教えてください。

創業者である父は、高知市内でトマトなどを育てる 専業農家でした。静岡を訪れた際、旅館で食べた自家 製豆腐の美味しさに驚き、製法を聞くと"イオン水"を 使っていることが分かりました。「この水を使えば、本当 においしい豆腐ができる」と確信したことが、豆腐製造 業を始めたきっかけです。

創業時はまさに何も無い状態からのスタートでした。 豆腐類を作っては㈱主婦の店チェーン〔現サンシャインチェーン〕様やラッキーセブン〔現エースワン〕様に試食をしてもらい採用していただいたことで、現在の経営環境を整えることができています。おそらく全国初である豆腐の移動販売車でのPRや、「室戸海洋深層水」を活用した新たな豆腐の開発(特許取得済)等、様々な事業への取り組みを経て、多くのお得意様から支持をいただいています。

①今後に向けた抱負を教えてください。

07 晴報▶ブラットフォーム 2024.1 No.436

地方は今まさに過疎化が進んできており、企業においては非常に厳しい状況だと考えています。過去のままの取り組みでは経営の維持そのものが難しいため、今後は当社の商品群(豆腐)のノウハウを活かしたロン

グライフ商品を製造し、全国、海外にお届けできる体制 を構築してまいります。健康志向の需要が高まる今日、 添加物をなるべく使用せずに植物性タンパク質を有効 活用した商品を販売していきます。



102 Jerky Jerky 866 66





▲創業者

▲主力製品





▲社屋

----企業情報---

株式会社タナカショク

事業内容 豆腐・豆腐関連製品の製造販売。 高知の素材・文化を活かしたタナカショクならではの商品を提供する。

住 所:高知市布師田1761番地

TEL: 088-845-2451

株式会社 十佐農機



代表取締役 井 澤 治

②50周年を迎えられた今のお気持ちを 聞かせてください。

当社は本年で創業から半世紀を迎えます。当社の製品を使用したお客様からの声や反響をいただいたときには大変嬉しく思います。今後も先代社長のハウス栽培や、私自身が数多くの園芸農家のお客様と面談して得られたノウハウを活かしながら製品開発をしていくとともに、多くの方に当社の製品を手に取っていただきたいと思っています。

②50年を振り返って、印象深いエピソード、 出来事などがあれば教えてください。

当社の最初の製品は昭和63年に先代社長が発案した生姜ライザーで、当時は大きな注目を集めました。その後、主力製品となる噴霧器(モーターフォグ)が知られるきっかけとなったのが、産業振興センターの職員さんに声をかけてもらった展示会への出展です。製品の特性である「少量散布」、「少量多潅水」というワードに来場者の方は関心を示してくれました。それからは展示会で知り合った方のもとへと全国各地に足を運び、園芸農家のお客様に直接、製品を紹介しました。使用した感想をいただいたりする中で、たくさんのノウハウを得ることができ、そのノウハウを活かすことで製品の改善につなげてきたので、顔を合わせて会話をすることが第一であると実感しています。

①今後に向けた抱負を教えてください。

今では県内外の数多くの農業者の方々に当社の噴霧器を使用していただいており、初めてのお客様からは「こんなに少ない量で効くのか?」と聞かれたりもします。ですが、実際に使用された方からは、木へのストレスが少なくなり「木(気)がえい!」と高い評価をいただいており、また、シーズンを通して作柄の管理がしや

すく、低農薬で品質、収量とも上がったというお声もいただいています。気候変動、温暖化と言われる中で「木 (気)がえい!」をテーマに、ますます農業者の方の一助になることを目指してまいります。



▲創業妻

▲「木がえい!」をアピールする 社長(展示会)



▲主力製品



▲社屋

株式会社土佐農機

---企業情報-

事業内容 施設園芸向けに少量散布に適 した小型電動噴霧器と、畜舎を消毒する噴 霧器の製造販売及び潅水設備の販売を行う。

住 所: 土佐市蓮池910番地 TEL: 088-852-3838



高校生(次世代賞)部門にご応募いただいた学校を ご紹介します!

高知県地場産業大賞は、昭和59年に開催された「くろしお博覧会」余剰金から基金を造成し、その運用益を基に昭和61年から毎年、優秀な県内企業の製品や地場産業振興に貢献した活動を表彰しています。

次世代賞は、高校生を対象に地域の活性化などに貢献のあった活動を顕彰する賞として平成22年に25周年記念として 創設し、以後第37回までに71件の応募があり、31件を顕彰しています。

11月号の一般部門に引き続き、今月号では12月8日まで募集を行った「高校生部門」にご応募いただいた4校5件をご紹介します。高校生たちが取り組む地域の課題解決や産業の活性化への取り組みをぜひご覧ください。



高知市立高知商業高等学校

高知市

陸の豊かさを守りつづける

~ジビエ部の挑戦~

シカなどによる食害という県内の地域課題に目を向け、捕獲された獣肉をジビエとして商品化・販売し、得られた利益を寄付することで食害からの森林保護を支援する活動です。今年度はジビエペットフードの商品化、県内企業のインターンシップ、ジビエレシピの配布等に取り組みました。



高知県立幡多農業高等学校 四

四万十市

まるごといかそう 幡多no食材

~大切にしたいひと・もの・こと~

地域の柑橘について研究し、四万十ぶしゅかんの活用方法を拡大するため、新商品を考え、学校給食に取り入れてもらう活動です。また、学校で育てた作物の廃棄部を利用した新商品作りや、環境保全と食・地域食材についての食育活動も行っています。



高知県立幡多農業高等学校 四万十市

広がれ僕らのwood work

~地域に残せる形あるもの~

グリーン環境科として森林率84%を誇る森林豊かな高知県の 林業について常日頃学んでいます。このことを活かし、四万十 ヒノキを使ったリサイクルボックス、木製玩具、食器等の製作や 木工教室の開催等に取り組むことで地域産木材のPRを行い、 地域に貢献する活動です。



高知県立安芸高等学校 安芸市

継往開来

~私たちがカタチにする『つなぐProject』~

当校統合前(旧安芸桜ケ丘高等学校)から20年以上続いている 桜市で、商品を仕入れている事業所同士を「つなぐ」という形で 商品開発を企画・提案。実際に完成した商品の販売を行うなど、 事業所を巻き込んだ取り組みにより、県東部地域の活性化に 貢献する活動です。



高知県立山田高等学校 香美市

地域活性化のための商品開発

~販売力と人間力~

県内企業とのコラボによる商品開発や、高知市内のイベントで 地元商品の紹介や販売を行う活動です。その他に小学生への 学習指導や、交流などのイベントも企画しています。こうした 取り組みによって、たくさんの人に香美市を知っていただき、 足を運んでもらいたいという想いで活動を続けています。

高校生部門の今後のスケジュール

1月6日(土) 最終審査会



1月中旬 結果発表







Facebook

Instagram

各応募高校の詳細はFacebook、Instagramでチェック!

高知のものづくり

Made in Kochiを全国へ ~営業本部レポート~

ミニ展示商談会を開催しました

「ギフト・ノベルティ・木工紙関連製品」(大阪国際ビルディング:10/18)

大阪営業本部 外商コーディネーター 鬼頭 政臣

今回開催したミニ展示商談会には、高知県の伝統技術と最先端技術を融合させた製品、素材・工程にこだわった製品、優れた加工技術を活用した製品などの「ギフト・ノベルティ・木工紙関連製品」を全8企業・団体が出展しました。

初めて紹介させていただくカタログギフト会社、ネット通販会社、商社など24社を含む多様な業種から37法人・団体、42名の方にご来場いただき、121件の商談が行われました。当日は内11件の見積依頼をいただき、61件の商談が継続中です。今後は出展社様の新規取引に繋がるようにしっかりアフターフォローを行ってまいります。

大阪営業本部は、県内企業の県外への販路拡大を推進するために、新規取引先との商談機会の確保に向けて積極的に取り組んでいます。関西圏、東海エリアへの販路拡大等お気軽にご相談ください。







| 出展企業 | 出展製品 |
|---------------|--------------------------|
| オフィスもこん | もこん炉 インテリア雑貨&アウトドアグッズ |
| 有限会社土佐通信 | ヴェリコット ポット、コースター、アロマストーン |
| 株式会社土佐龍 | 四万十ひのきの暮らしに役立つ製品 |
| ひのき屋 | 四万十ひのき枕、ヒノキオイル |
| 有限会社丸英製紙 | 備蓄用トイレットペーパー |
| 株式会社モリサ | 土佐和紙の紙製品 |
| 株式会社山のくじら舎 | 国産木材で作るノベルティ雑貨 |
| 一般社団法人高知県木材協会 | Roots&Leaf 木のバッグ |



外商に関するお問い合わせ

東京営業本部

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F

TEL:03-6452-8830 FAX:03-6452-8831

大阪営業本部

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町2-6-8 センバセントラルビル1F 高知県大阪事務所内 TEL: 06-4708-3398

TEL:06-4708-3398 FAX:06-6244-7933

大阪営業本部 (名古屋駐在所)

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-16-8 栄メンバーズオフィス8F 803号室 TEL/FAX: 052-684-4904





新・お~い会員さん

井上ワイナリー株式会社

孝志 井上 代表取締役



会社概要

井上ワイナリーは、1884年創業の長い歴史を 持つ井上石灰工業が母体です。石灰をベースに 開発した新IAS法有機栽培適合「ICボルドー」は、 国内外で知られる殺菌剤で、ブドウ栽培をはじめ 多くの果樹栽培の品質向上に大きな役割を果たし てきました。そのノウハウとICボルドーを活用し、 ブドウ栽培には向かないと言われるこの高知で、 土地に適したブドウを育て、地域ごとのワインを 作ろうと2012年から挑戦を始めました。2016年 4月に会社を設立、2021年からは「のいち醸造所」 を建設し、自社醸造を開始しました。





会社の特長や強み

高知の高温多雨の気候・風土に適したブドウ 品種を選定し、現在では6市町の圃場でブドウ栽培 を行っています。この圃場は地域の方々の力をお借 りして耕作放棄地を開墾したものであり、また、 地元の老人クラブや高校生に収穫、ラベル作りへ 参加いただくなど、持続可能で地域活性化に貢献 する取り組みも行っています。「かつおのタタキ」 「土佐あかうし」「はちきん地鶏」など多くの高知 の食材や料理とのマリアージュを楽しめるワイン、 高知ならではの個性・味を追求したワインを造り 出しています。



今後の抱負

2022年には醸造所内に「井上ワイナリーのいち 醸造所&SHOP」をオープンし、醸造所を眺めながら ワインの試飲・販売や、ワインに合うグロサリー 商品・スウィーツの販売を始めました。2023年には 新たに2か所の圃場が加わり、新しい品種を含めた 生産が始まっています。さらに、今後は「山北みかん ワイン」のようなブドウ以外の果汁を使った、高知 の新しい特産品となるような商品開発も行って まいります。「高知でしか造れないワイン」で、高知 の新しい食文化を創りたい。私たちは、これからも 高知の皆様と一緒に進んでまいります。



連絡先

住 所: 香南市野市町大谷 1424 番地 31

T E L: 0887-50-6694



新しく賛助会員に入会された 会員さまをご紹介します!



有限会社丸英製紙

代表取締役

濵田

英明



会社概要

当社は1963年に法人化し、ボックスティシュ・ リサイクルパルプトイレットペーパーを製造販売し ています。当初は障子紙を中心に製造していまし たが、高度経済成長により機械化が進み、日用品 の製造へと発展してきました。近年では「世界初の 防災製品」である10年保証備蓄用トイレット ペーパーの新シリーズ「LogLog(ログログ)」を 開発。防災備蓄の事業に注力しており、ニーズに 合わせたさまざまな防災製品を製造しています。





会社の特長や強み

当社の主力製品は、長期保存が可能な備蓄用ト イレットペーパーであり、お客様のニーズに沿った 製品づくりを目指しています。

展示会へ積極的に参加し、刻々と変化するニーズ に対応すべく、社員一丸で考え社会に役立つ製品 を生み出しております。また昨今では、早いレスポ ンスを活かした製品提案で、ノベルティやギフトで 使える製品づくりに取り組んでいます。

すでに多くの方々にご利用いただいており、自治 体・金融系・自動車ディーラーなど多くの採用実績 が出てきました。



10年保証備蓄用トイレットペーパー「LogLog」



今後の抱負

製品づくりを通してお客様の幸せを社員一丸 で考え、社会貢献できる企業を目指しています。

常に新しいニーズを掘り起こし、時代に沿った 営業を続けていき、環境配慮、格差のない社会の 実現に向け、企業役割を明確にし、今後の事業展 開へ繋げてまいります。



連絡先

住 所: 吾川郡いの町鹿敷 523-2

T E L: 088-892-0661





経営上のお悩み、相談しませんかく

「よろず支援拠点」は、国が平成26年度から全国に設置している無料の経営相談所です。 中小企業の皆様の売上拡大や経営改善等、経営上のあらゆるお悩みに対応します。

相談事例の紹介

老舗居酒屋が取り組む「利益をアップする手法」

担当コーディネータ-

篤士 峠 髙井 將也

○ 1 相談のきっかけ



02 現状分析と課題把握



相談者は、四万十市 (旧中村市) で約60年続く老舗の 居酒屋を営んでいる店主です。新型コロナウイルス 感染症の影響で客数が激減していたものの、感染 状況が落ち着き始めてからは売上も順調に回復しつつ ありました。しかし、原料価格の高騰により利益が 十分に確保できない状況になったため、「地域に根付 いた老舗を応援したい」という地元の金融機関の方と 共に、利益を上げるための手法について、当拠点へ 相談に来られました。

会社の強みについて従業員にヒアリングしたところ、 カツオのたたきや川エビ、ビリカツオ造り(その日の 午後に揚がったばかりのカツオの造り) などの名物 商品が、観光客だけでなく地元の方々にも評価されて いることが分かりました。また、お客様の満足度を 第一に考え、毎日のミーティングで本日のおすすめ 料理を共有し、価格面についても努力していること から、戦略的に接客することで利益改善は十分見込め ると分析しました。

03 解決策の提案と実施



04 支援の成果 111

まずは、料理のプロである従業員から、お客様の 来店動機に合わせた商品を、お客様にも選択肢を与える ような形で提案することをアドバイスしました。具体的 には、お客様と積極的にコミュニケーションを取り、 観光客が来店した際には高知の名産品である「カツオ のたたき」をおすすめすることや、お子様連れのお客様 には子ども達に人気の「大エビフライ」を提案するなど、 お客様の層に合わせた適切な商品を提案するよう伝え ました。その結果、たとえ商品の価格は高くても、食べ たい商品であれば満足度に繋がることを相談者に改めて 実感していただくことができました。

老舗だからこそ、初心に帰り丁寧な接客をしたことが 功を奏したのだと思います。おすすめ商品の月間販売数は 2.5倍になり、1人当たりの客単価を400円アップすること ができました。利益を出すために原価を下げることはもち ろん重要ですが、人気店だからこそ値上げは慎重に進め ることが大切です。飲食店はお客様と接する機会が多い ため、まずは従業員全員が「販売促進=商品提案」という 意識を持つことができれば、客単価はアップできます。

「自社の強みを知り、それをお客様に伝えること」。小さな 取り組みですが、その積み重ねが大きな成果へと繋がって いくはずです。



今まで、お料理のおすすめは従業員 一同してきたつもりでしたが、お客様一人 一人をしっかりと見て、ご来店の目的を 聞いてみると、プロとして提案が足りて いなかったことを実感しました。アドバイス をいただいてからは、毎日のミーティング

でも従業員から様々なアイデアが出るようになり活気づいて います。まだまだ改善できるところはたくさんあると思うので、 -つ一つ解決していきたいです。



近藤 格 四万十市中村新町 1丁目39番地2

TEL 0880-34-5041



\ HPはこちら/



お問い合わせ・ご相談予約 (公財)高知県産業振興センター内 高知県よろず支援拠点

住 所 〒781-5101 高知市布師田3992番地2 高知県中小企業会館5階

Email yorozu@joho-kochi.or.jp

TEL 088-846-0175

対応時間 8:30~17:15(土日祝日を除く平日) | 高知県よろず |





高知ぢばさんセンター貸し出

会社内での研修や各種イベントに 高知ぢばさんセンターを使ってみませんか?

商談室、会議室、研修室、多目的ホールは8~130人まで 対応できます。各種割引サービスも充実!









研修室2











多目的ホール

商談室2

基本使用料金

消費税込(単位:円)

(冷暖房使用料は別途)

| | 面積 | 収容人員 | 全日 | 午前 | 午後 | 夜間 | 超過料金 |
|-------------|-------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|--------|
| | (m²) | (人) | 9:00~17:00 | 9:00~12:00 | 13:00~17:00 | 18:00~21:00 | 1時間につき |
| 大ホール 3,000 | 5,000 | 平 日 231,550 | 110,990 | 147,730 | 162,360 | 15,400 | |
| | | 土日休 302,720 | 144,540 | 192,720 | 212,630 | 20,130 | |
| 多目的ホール | 256 | 132 | 36,630 | 17,490 | 23,320 | 25,630 | 8,580 |
| 商談室(No.2~4) | 24 | 12 | 3,520 | 1,650 | 2,310 | 2,530 | 880 |
| 研修室1 | 128 | 108 | 18,480 | 8,800 | 11,770 | 12,980 | 4,290 |
| 研修室2 | 80 | 45 | 11,660 | 5,500 | 7,370 | 8,140 | 2,640 |

※大ホール:別途清掃料、ゴミ収集料がかかります。

※商談室1・会議室:貸し出しを停止しています。

※**商談室2**:平日夜間および土·日·祝のみ貸し出しています。

● 多目的ホール、会議室、商談室、研修室の基本使用料の割引

| 割引 | 適用条件 | | |
|--------|-----------------|-----|--|
| 賛助会員割引 | 当財団の賛助会員が使用する場合 | 20% | |
| 併用割引 | 大ホールと併せて使用する場合 | 10% | |

※各割引は併用することができます。

大ホール基本使用料の割引

| 割引 | 適用条件 | 割引率 |
|----------|-----------------------|-----|
| 搬入出等割引 | 専ら準備、搬入、撤去などに使用する場合 | 20% |
| 新規割引 | 新規に使用する場合 | 10% |
| 準新規割引 | 2回目に使用する場合 | 5% |
| 単年度複数割引 | 単年度に複数回使用する場合(2回目以降) | 10% |
| 半面割引 | 半面のみを使用する場合 | 10% |
| 県内企業応援割引 | 高知県内に本支店を置く企業等が使用する場合 | |

※各割引は併用することができます。ただし、半面割引は、新規割引及び準新規割引とは併用できません。



【お問い合わせ・お見積り・ご予約】

(株) 四国環境管理センター ぢばさん事業部 (担当:中屋)

T E L 088-846-0311 F A X 088-803-8510

Email diba-yonkan@cup.ocn.ne.jp





| | 行事予定表 | | | | | | |
|-------------------------|---|---|---------------------|-------|--|--|--|
| 区分 | 日時 | 名称 | 場所 | QR⊐−ド | | | |
| セミナ | 1月18日(木) 13:00~15:00 | 会社の商品や魅力を伝え、 ビジネスを拡大しよう! 「オンラインプレゼンテーションの極意」 | オンライン開催 | | | | |
| † | 2月7日(水) 13:30~16:30 | 営業ノウハウを Web コンテンツで 実現する! Web の売上が変わる! ポジティブクロージングの極意 | セリーズ3階 マリンホール | | | | |
| | 1月15日(月) 2月19日(月) 10:00~11:30 | プレスリリース作成 セミナー | | | | | |
| | 1月22日(月) 2月 5日(月) 13:30~15:00 | 小規模事業者持続化補助金解説 セミナー | | | | | |
| 少人数セ | 1月29日(月) 2月26日(月) 3月 4日(月) 10:00~11:30 | 初心者のためのネットショップ 売上アップセミナー | | | | | |
| 少人数セミナー(定員5名) よろず支援拠点開催 | 1月29日(月) 3月4日(月) 13:30~15:00 | 「原価の求め方」の基礎セミナー | ぢばさんセンター1階 商談室 2 | | | | |
| 員開 5催 名) | 1月31日(水) 2月29日(木) 14:30~16:00 | イチから始める新規集客セミナー | | | | | |
| | 2月1日(木) 2月28日(水) 14:30~16:00 | 売上 UP・リピーター獲得セミナー | | | | | |
| | 2月7日(水) 3月6日(水) 13:30~15:00 | はじめての SNS ビジネス活用セミナー | | | | | |



令和5年度

まもなく募集開始!

電力・ガス・食料品等の価格高騰によって実質的な賃金が減少している中、給与等の増額を行う県内中小企業者等 のデジタル技術への投資を通じた生産性を向上させる取組を支援します。

2月29日(木) 17:00 (3月下旬交付決定予定) 1次締切 <u>これ以降、毎月末締切(土日祝日の場合はその前日)</u> ※予算がなくなり次第募集終了

お問い合わせ(公益財団法人高知県産業振興センター内)

デジタル化推進課 TEL:088-845-6600(9:00~17:00 土日祝除く)

※詳しくはHPをご参照ください▶

デジタル技術活用促進事業費補助金

